

琉球新報 2019.03.09 琉球新報朝刊 27頁 社会 1版 写図表有 (全505字)

【京都で宮城隆尋】琉球遺骨返還請求訴訟の第1回口頭弁論で8日、原告として意見陳述した亀谷正子さん(74)は時折涙で声を詰まらせ、先祖の遺骨を沖縄に返すよう訴えた。弁論終了後に京都市内で開かれた集会では、関西地方で暮らす県人らが次々支援の声を上げた。(1面に関連)

琉装で証言台に立った亀谷さんは冒頭「はいたい、ぐすーよー、ちゅーうがなびら(こんにちは皆さん、ご機嫌いかが)」としまくとぅばで陳述を始めた。

自身が百按司(むむじゃな)墓と関わりがあるとされる第一尚氏の子孫であることに加え、清明祭や旧七夕など墓に関する行事を通した先祖とのつながりを説明した。洗骨の説明で、1965年に亡くなった祖父の頭骨を洗う叔母の姿を「昨日のこのように思い出す」と声を震わせながら述べた。

遺骨の持ち出しを「犯罪行為」と強い調子で批判し、裁判所に「京都大学の琉球民族差別にくみすることのない、公正な判断を」と求めた。裁判官や被告側弁護士らは真剣な表情で聞いていた。裁判後に原告団と弁護団が開いた集会で、松島泰勝原告団長(龍谷大教授)は名護市辺野古の新基地建設を挙げて「日本政府は琉球から土地も遺骨も奪っている」と批判した。

琉球新報社